
いま、あいに行きます

猫田ひなびよ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いま、あいにいきます

【Nコード】

N3913Z

【作者名】

猫田ひなびよ

【あらすじ】

幼いころ偶然たどり着いた小さな楽園を、もう失いたくないのです。

（前書き）

ただ、叫びたかった。豊か過ぎてすさんだ、この世界へ

許すなと囁く声を、この身からあふれる黒い闇をとどめようとする者たちの声など聞こえない。

魔は殺したと森ごと焦土と化した者達の喚起などどうでもいい。
さあ王子よ、と地位と名誉と金だけにあつまる人間の皮をかぶっただけもののたちの声など届かない。

『あ、こら！！なにしてるのっ』

この醜く爛れ^{ただ}きつた世界で私を導いてくれた人が、どこにもいない。

深い深い樹海の奥でひそやかに生きていたあの人がなにをした？
深い深い霧の奥で穏やかに暮らしていたあの人がなにをした？
人が恐ろしいと誰も近づけぬように、近づけば樹海の出口へ行くように魔術をかけ、畑を耕し、洗濯や料理や刺繍をしてゆったりと椅子に座っていたあの人がなにをした？

ああ、嗚呼。

人間は、なんて醜いのだろう。

人間は、なんて愚かなのだろう

ならば、壊してしまえばいい。

そして、そのあと私も消してしまえばいい。

人を嫌いながらもぬくもりを欲する、さびしがり屋なあの人のことだ。きっと、喧嘩したあのころのようにしょんぼりと膝を抱えて、肩を震わせて、私をまっけてくれているはずだから。

大丈夫だ、すぐいくよ

そうしたら今度は、絶対に離しはしないから。
その小さな頭をなでて、つやつやの髪に櫛くしを通して、乾いた涙でぱりぱりになった頬を暖かいタオルで拭って、膝の上で抱きしめてあげるから。

『…………ばあか』

だからお願い。
いつものように泣き止んで、
笑ってほしい。

（後書き）

さらりと読んでいただければと思います。
ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3913z/>

いま、あいにいきます

2011年12月13日11時49分発行